

★広島県内の七つの被爆者団体の代表や氏が6日、広島市中で安倍晋三首相と会談し、要請書のなかで集団的自衛権行使容認の「閣議決定」について「現行の憲法解釈ではいのちと安全が守れない」という主張は歴史的事実を偽り、被爆者の願いに背くものだ」と批判し、撤回を求めました。首相は「国民の命と平和な暮らしを守るためだ」と強弁しました。

と な み

# 旗 赤 読者のひろば

日本共産党  
砺波市委員会  
西尾 英宣  
千代 180  
Tel 33-6118

## 【新図書館整備検討委員会】

# 「砺波らしい」「図書館に

第五回新砺波図書館 大学工学部建築学科准  
整備家各検討委員会(委 教授)が五日開かれまし  
員長 中井孝幸愛知工業 た。

前回の「こんな図書館がほしい」に続き、「砺波らしい図書館」をテーマとしたワークショップが、散居村の環境はすばらしい。緑の図書館に「砺波といえばチュウリップ。チュウリップ図書館に」「町の中と景色のよいところの二箇所

に「図書館は、まちのシンボルといわれるようにしていきたい」「蔵書をたくさん出来るように」等々、様々な意見が出されました。九月末〜十月初に市長に中間報告をする予定。よく協議をして新しい図書館に期待するものです。

## 【広島・長崎被爆69年】

# 自衛隊駐屯地拡張の是非

アメリカによる原爆投下の惨禍から六十九年を迎えました。原爆は街を壊滅させ、尊い命を奪い、生き残った人びとも放射線の影響による後遺症に苦しめられ、その苦しみは今でも続いています。核兵器の「人道的影響」を追及する声は世界中に広がり、今年四月に開かれたNPT(核不拡散条約)再検討会議第三回準備委員会では、圧倒的多数の国が核保有国に核兵器禁止条約の交渉開始を迫っています。日本は被爆国として、

憲法9条を持つ国として核兵器のない平和な世界をめざす先頭に立つべきですが、安倍内閣は集団的自衛権行使容認を「閣議決定」し、「戦争する国づくり」の動きを強めており、多くの国民が不安と危機感を強めています。そうしたなか、砺波にある自衛隊駐屯地の拡張の動きについて「自衛隊が明確に軍隊になるのに良いのか?」「必ずオスプレイが来ることになる」など懸念の声が聞かれます。この機会にあらためて是非を考えるべきだと思います。



▲前回のワークショップのまとめ資料。「子育てしやすい図書館を!!」、「皆の図書館」、「こんな図書館がいい」として、ハードやソフトなどさまざまな角度からの意見が出されています。

★東京電力は6日、2011年3月の福島第1原発事故で、3号機の冷却システムによる注水が早い段階で停止したため、燃料溶融がこれまでの推測よりも5時間ほど早くに始まり、ほぼ全量が原子炉から格納容器に溶け落ちたとする解析結果を発表しました。廃炉作業の困難さが浮き彫りになりました。

【ただのいぶき】

3日 入善町議補選

町長選挙と同時に町議補選(定数2)も。昨秋の町議選で惜しくも次点だった日本共産党の井田よし

したか氏(四十五歳)が五九九九票で二位当選、二議席回復を果たしました。二日に応援に入ったとき、有権者の保育所入所制限解消などの政策への期待、安倍内閣の集団的自衛権行使への怒りなどが感じられ、出るべくして出た結果だなど実感。町長選の結果も、安倍自公政権への怒りの現れと思います。

5日 子ども電話相談

「人間は子孫を残さなければならぬのに、どうして戦争するんですか?」：なかなか深い質問だと思えました。どう答えるのかな?と耳を傾けると、「科学相談なので」として、「科

【続 きんごの口誌】

5日 農民連の全国研究交流集會に参加しました

二日間の日程なのですが、翌日には別の用事があるので早朝に高速を飛ばして帰る計画です。

日頃高速道路を利用する機会が無いので、三時間以上かかる場所まで運転していけるか心配でしたが、私の車に同乗した二人はドライバーが不安を抱いていることに気付かず、安心して快眠を堪能しておられました。

その寝顔をチラ見しながら、私達の安心感などというものはなんと不確かな信じ込みの上になりたっているものなのかと改めて考えさせられました。勝手に休んだり減速したりできない長いトンネル、そんなところで追い越したり追い越されたりすることにも少し慣れてきたところで、上越から上信越自動車道に入りました。景色はほとんど避暑地



つぼくなっているのです。が妙高高原を通過する時の外気温がなんと34度、暑さから逃げられない日本列島です。

会場は長野県の栄村役場、庁舎の正面右側にTPP参加阻止をアピールする垂れ幕が掛けられていました。

今日の研修会のために準備されたものでなく、ずっと掲げられてあるものです。明確な村役場の意思表示が印象的でした。

全国から二百人を超える農民連の仲間が集まりました。実践的住民自治を提唱し、田直しや道直し、げたばきヘルパー制度などユニークな取り組みで全国の注目を集めた元栄村村長の報告は、時代の特徴に応えた話の展開で、とても八五歳とは思えない明瞭で迫力のあるものでした。

こんな歳の重ね方があるんだと衝撃でした。懇親会の会場まで車で送ってくれた女性は、静岡

の農民連の事務局をしている方でした。

無農薬お茶栽培の専業農家の娘さんでしたが、消費の低迷に原発による放射能汚が追い打ちをかけ、お茶農家の減少に歯止めがかからないと話されていました。

地域の特産品を守り伝えていこうと苦労をしている人たちがここにも居られるなど親しみを感じました。

懇親会は村のスキー場の建物、近くには夜にうるつく輩を呼び寄せるような明かりは皆無で、閉会後は宿泊の宿に直行です。

と言ってもこれだけの人が一か所に宿泊できる場所は無く、北陸勢は新潟県津南町の宿に移動しました。

千曲川が信濃川に変わるあたりで、流れの音が聞こえる「しなの」という宿でした。

(何でもお気軽にご連絡・ご相談ください・多田携帯 090-3369-8216)